



黒毛和種肥育牛の脂肪交雑向上を目的に行われるビタミンAコントロール技術においては、牛の血中ビタミンA濃度を適切に制御するとともに、肝機能の低下などによる疾病が発生しないようケアすることが重要です。

そこで今回は、強肝剤（ルーメンバイパスメチオニン製剤。以下、RBM）の給与が枝肉成績と肝機能に及ぼす効果について、黒毛和種去勢牛（26カ月齢出荷）を用いて検討しました。

試験では、20カ月齢から2カ月間、1日当たりRBM20gを飼料に添加して給与する区と給与しない区を設けて、枝肉成績などの比較を行いました。

その結果、RBMを給与すると枝肉成績が良好となり、特に胸最長筋面積が大きくなりました。また、試験開始前の血液検査

黒毛和種へのRBM給与

胸最長筋面積大きく 肝機能改善にも有効

枝肉成績と血液検査値

処 理	供試頭数(頭)	枝肉成績						血液検査値※		
		枝肉重(kg)	肉等級	胸最長筋面積(cm ²)	ばらの厚さ(cm)	皮下脂肪の厚さ(cm)	歩留基準値	BMS No.	AST (IU/L)	GGT (IU/dL)
RBM 給与	4	514	5.0	71	10.3	3.2	76	9.3	80±55	41±14
									61±15	38±8
無給与	4	504	4.5	56	9.8	3.3	74	7.3	53±13	31±10
									41±16	29±1

※血液検査値の上段はRBM給与開始前、下段は給与終了後の値。(正常範囲:ASTは40~80、GGTは40以下)

査で、肝機能低下が疑われる牛が給与区に2頭いました。RBM給与により血液検査値が正常範囲へ改善される傾向が見られました。

以上の結果から、黒毛和種去勢肥育牛へのRBMの給与

は、枝肉成績および肝機能の改善に有効であることが分かりました。

(長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門 大家畜研究室 室長 井上哲郎)